



門真市教育委員会委員の方々への3/17緊急書簡

門真市議会・文教こども常任委員会所属：戸田ひさよし（無所属）

連絡先：門真市新橋町 12-18-207 電話：06-6907-7727 FAX：06-6907-7730

教育長：久木元秀平様、教育長職務代理者：長澤信之様、教育委員：桜井智恵子様、土川好子様、高橋元様へ
（原本は速達発送。市内は17(土)夜、市外2人は18(日)受け取りのはず）

謹啓 突然の所管と資料の郵送をご容赦下さい。

既に教育委員会事務局から、「3/15 文教こども常任委員会での生涯学習複合施設に関する戸田議員の質問と答弁全文メモ」が郵送されているはずですが、これは私が3/15 文教こども委の所管事項質問で、強く要求した事によって実施されたものです。（「Q15：」の部分）

年間1～2回程度、不定期に開催される「総合教育会議」が、この度は「年度末かつ3月議会開催中の非常に慌ただしい時期」に、突然に開催される事になりました。

そして宮本市長は、この突然の「3/19 総合教育会議」の場で、ここ10年近くに渡る全庁的な合意形成と市議会での審議や合意形成の蓄積を無視して、とりわけ図書館・生涯学習複合施設を所管する文教こども常任委員会（旧名は文教常任委員会）での審議蓄積を無視して、「教育委員会委員の人達だけを相手にして」、「新図書館を含んだ生涯学習複合施設を旧一中跡地に建てる事業計画」の取りやめをする事を策動しています。

こういう手法は、「市行政が継続してきた事業計画の不当な廃棄」であり、「議会無視」、「この事業性格であればこそ用地買収に応じた地権者など事業に協力してきた周辺住民への騙し行為」、「この計画実現に期待を寄せてきた広範な市民への裏切り行為」、「議会や市民への積極的な情報共有や説明責任を行政に義務づけている、門真市の最高規範である自治基本条例への違反」等々で、絶対に許されない事です。

この計画は、「文化面で市民力が非常に弱い門真市」において、「古川橋駅北側の1中跡地に商業施設等ではなく、門真市の市民文化の顔として新たな生涯学習複合施設を作る」というコンセプトで、全議員の賛同の下に全庁丸となって進められて来た、非常に重要な施設計画です。

私の質問でも改めて浮き彫りされたように、「門真市の図書館と生涯学習複合施設（現在は旧高校校舎流用の「市民プラザ」しかない）条件は、大阪府内の市の中で最底辺にある」状態です。

（「要点整理」や「Q1～Q4」参照）

宮本市長が、「自分が興味の無い分野」については、側近議員の意向や八百長質問を利用して不当に潰そうとする人間である事は、2016年度の「3中校区地域会議協働センター建設の潰し」に現れましたが、今回も同様の発想と手口であります。

▲「これまで全議員が賛成していたこの計画」に、疑問や異議を唱える議員が現れたのは、2017年9月議会になって市長側近与党の五味議員が一般質問（個人質問）をしたのが最初であり、その後同年12月議会での五味議員一般質問・公明党の武田議員一般質問、今年3月議会での緑風クラブ会派代表質問と続いたものの、「見直し必要の根拠」とされたのは、何ら具体的データや根拠の無い「個人的感想」だったり、過去にとっくに否定された開発コンセプトでしかありません。

「人口の急減」といっても「2012年から2017年で4,680人減少」は、到底、生涯学習複合施設計画の抜本見直しの理由とはならず、宮本市長自身の「今後は人口減少を最大限抑制していく」方針とも矛盾します。

▲宮本市長が3月議会答弁や「2/13庁議」で上げている「松生町で三井不動産による開発等が今後進められる予定・モノレール南伸事業化の決定」などは、「新図書館を含んだ生涯学習複合施設を旧一中跡地に建てる事業計画」を取りやめる理由になり得るものではありません。

「（既存の）公民館や市民プラザの活用」とか「今後ルミエールホールの改修」なども全く理由にならず、「市民の文化活動を支援育成するには既存の施設では手一杯になっているからこそ、新たな生涯学習複合施設が必要となった」事を無視するもので、いずれにしても支離滅裂です。

教育長および教育委員の皆様には、3/19 総合教育会議において、以下の事を強くお願いします。

- (1) 「現在の生涯学習複合施設建設計画」の粛々たる推進を求められること
- (2) 宮本市長が提起する「現在の生涯学習複合施設建設計画に見直し」に軽々に賛同せず、市長に論拠を問い質し、「市議会も含めた慎重審議」を宮本市長に対して要求されること

敬白